

V. 今後に向けた基本方針と取り組みの方向性



本市の現状・問題等及びそれに対する課題をふまえ、本市の公共交通が、将来に向けて目標、基本方針を定めるとともに、今後の取り組み施策を考える上での視点を整理しました。

1. 目標と基本方針

本市のまちづくりの方向性や課題等をふまえ、船橋の公共交通の目標（公共交通がめざす姿）、及びその実現に向けて今後取り組むべき事項等の基本方針を以下のとおり定めます。

目標（船橋の公共交通がめざす姿）

- 将来まで持続し、まちづくりに寄与する船橋の公共交通を目指します。

基本方針（めざす姿の実現に向けた取り組みの方向性）

方針1 ターミナル・拠点等の利便性・わかりやすさの向上と市民等の利用促進

- ・複数の事業者が各社個別の対応を行っていること、駅アクセス・乗り継ぎ等の利用環境に改善の余地があること、クルマ中心のライフスタイルであること等の現状を踏まえ、利用しやすい公共交通の実現と公共交通の一層の利用促進を図っていきます。

【主に市民や利用に関わる取り組み】 【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

方針2 公共交通不便地域等の移動支援

- ・公共交通不便地域の解消に向けた移動支援策等に継続的に取り組みます。移動支援策については地域主体で支えていくことも含め、市民とともに考え取り組んでいきます。

【主に地域における取り組み】 【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

方針3 将来にわたる公共交通サービスの確保

- ・「広域移動」、「市内地域間移動」、「地域内移動」、「回遊等」を支える公共交通サービスを、将来にわたって確保していきます。また、持続的な運営・運行を目指す上での問題の解決に取り組んでいきます。

【主に運行事業者に関わる取り組み】 【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

方針4 集客・回遊性向上等を通じたまちづくりへの寄与

- ・今後のまちづくりの考え方を踏まえ、集客・回遊性の向上に資する拠点間公共交通やフェーダー交通等による利便性向上に取り組みます。また、“公共交通＋歩く”を中心とした交通まちづくりに取り組んでいきます。

【主にまちなかにおける取り組み】 【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

2. 今後の取り組みの方向性

基本方針から、今後必要となる取り組みの方向性、及び取り組み施策を考える上で重要となる視点を以下に示します。

2.1. 取り組みの方向性（取り組みのねらい等）

本市の目標・基本方針をふまえ、今後、以下に示す方向での取り組みが必要と考えられます。これらに対応する取り組みの具体的な実施方法については、本計画以降、市民・運行事業者や関係者が連携しながら検討し、また必要に応じて、実証運行や試行実施を踏まえながら進めていきます。

1 ターミナル・拠点等の利便性・わかりやすさの向上と市民等の利用促進

現状で、乗り継ぎ、遅延や運休等による公共交通利用への抵抗感が生じていること、複数の事業者で各社個別の案内等の対応が行われていること、市民等のライフスタイル自体がクルマ中心になってしまっていること等に着目し、これらの改善に資する種々の方策について、状況によっては試行等による可能性検討も踏まえながら、取り組んでいきます。



考えられる
取り組みの
方向性(例)

【主に市民や利用に関わる取り組み】

駅アクセスや乗り継ぎ拠点等の利便性を向上する
あわせて、新規路線を検討する
主要ターミナル等のわかりにくさによる抵抗感を軽減する
遅延や運休等による利用客離れを防ぐ
市民等のクルマ依存（意識・ライフスタイル）を少しずつ変える

【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

利用者の利用促進を図るため、交通結節点の機能強化を行う

例えば…

- ・主要ターミナル等ののりば等をわかりやすく案内する、駅前のバスの発着、鉄道との乗り継ぎを容易にする
- ・バスの駅前乗り入れと合わせて新規路線を検討する
- ・運行情報・案内を充実する
- ・遅延を待つ苦痛を緩和することでフォローする
- ・大幅遅延や運休時の連携を考える
- ・クルマ依存の見直しや公共交通利用のPR・企画等を行う
市民が自ら考える機会を提供する 等

2 公共交通不便地域等の移動支援

公共交通不便地域への移動支援策について、継続的に検討していきます。地域の状況に応じて、種々の方策による公共交通サービスを検討し、市民とともに考える機会を設け、また、状況によっては実証運行等による可能性検討も踏まえながら、取り組んでいきます。



考えられる
取り組みの
方向性(例)

【主に地域における取り組み】

不便地域に対する公共交通サービスを継続的に検討する
地域とともに考え、地域とともに支えていく

【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

公共交通不便地域を解消するため、道路整備等を行う

例えば…

- ・バス、タクシー等の可能性を考える
- ・人口が少なく広く分布する地区の方策を考える
- ・地域主体で考え支える移動サービスを検討する 等

3 将来にわたる公共交通サービスの確保

「広域移動」、「市内地域間移動」、「地域内移動」、「回遊等」を支える公共交通サービスを将来にわたって確保していくとともに、駅アクセス・拠点の充実に合わせて新規路線を検討します。持続的な運営・運行を目指し、運行の負担や厳しい運営状況につながっている要素の改善や、各運行事業者の連携に資する取り組みを行っていきます。



考えられる
取り組みの
方向性(例)

【主に運行事業者に関わる取り組み】

現在のネットワーク構成を確保するため、路線・運行のロスや負荷につながる要素を改善する

【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

バス遅延を解消するため、道路整備や道路改良等を行う

例えば…

- ・効率的な運行を考える
- ・渋滞での遅延による負荷を減らす方法を考える
- ・運行方法の調整を検討する
- ・各事業者が連携・協力する仕組みをつくる
- ・支援方法を継続的に検討する
- ・新型コロナウイルス感染症への対応を考える 等

4 集客・回遊性向上等を通じた、まちづくりへの寄与

集客・拠点整備などのまちづくりと連携し、集客、回遊性の向上に資する公共交通サービスの提供や来訪客へのPR・案内を充実する方策等について検討します。状況によっては試行等による可能性検討も踏まえながら、取り組んでいきます。



考えられる
取り組みの
方向性(例)

【主にまちなかにおける取り組み】

集客・拠点整備などのまちづくりと連携し、回遊性の向上に資する公共交通サービスを提供する
来訪客へのPR・案内を充実する
継続的に来訪客のニーズや関係者の情報を把握する

【都市・地域総合交通戦略に関わる取り組み】

集客・回遊性の向上等を図るため、駅を中心とした交通まちづくりを行う

例えば…

- ・回遊する公共交通手段を提供する
- ・回遊するための複数の公共交通を使いやすくする
- ・公共交通や観光・集客施設が連携したPR・企画を考える
- ・来訪者への総合的な案内を行う
- ・市民や来訪者のニーズ等を継続的に把握する、商業・集客・観光の関係者と情報交換する 等

2.2. 取り組みを考える上での視点（取り組み方等）

前記の取り組みの方向性（取り組みのねらい等）を満たすための方策として種々のメニューが考えられますが、本市における今後の取り組み方策を選ぶにあたっては、以下の視点（取り組み方）を重視することとします。



今後の取り組みに関しては、その検討プロセスにおける市民の参加等を通じて、公共交通に対する意識の醸成につながるよう検討します。

また、取り組み方策については、市民・利用客の多様な行動スタイルに対応できるよう、公共交通の運行状況など情報データの標準化（オープンデータ化）を検討するとともに、新たな技術・ツールの活用（情報の見える化や MaaS による公共交通利用促進など）の可能性を検討します。

取り組み方策の検討に当たっては、本計画による取り組みを機に、異なる公共交通事業者や、集客・観光等の関係者が意見交換を行いながら進めるなど、目指す方向を共有した取り組みにつながるよう検討します。

(船橋市の将来の公共交通ネットワーク)

- ・現在の公共交通ネットワークの構成を将来まで持続します。
- ・公共交通不便地域に対する交通サービスを、実証運行を踏まえながら順次導入します。
- ・主要ターミナルや駅前等の案内・利便性の充実だけでなく、市民等の利用促進に取り組みます。
- ・集客エリアの回遊性を向上する方策に、試行・実証運行を踏まえながら取り組みます。

現在の公共交通ネットワーク



将来の公共交通ネットワーク



軸	交通機関	具体的な路線	考え方
広域移動 (主に都市間)	● 東西方向の鉄道	JR 総武線 JR 京葉線 京成本線 東葉高速鉄道 東京メトロ東西線 北総鉄道	鉄道（東西方向の基幹軸） ●本市と東京方面をつなぐ基幹軸として、バス等の取り組みと連携した利用促進、継続的なサービスの取り組み。（快適性向上、車内混雑の分散等）
広域・地域間移動 (主に都市間・地域間)	● 南北方向の鉄道	JR 武蔵野線 東武アーバンパークライン 新京成電鉄	鉄道（南北方向の基幹軸） ●近隣自治体及び市内地域間をつなぐ中心軸として、バス等の取り組みと連携した利用促進、継続的なサービスの取り組み。（快適性向上、車内混雑の分散等）
	● 路線バス (南北方向の中心軸)	船橋新京成バス（船橋駅～小室駅）等	路線バス（南北方向の中心軸） ●市内地域間をつなぐ中心軸として、将来まで確保。多数のバス路線が重なる軸であり、分かりやすさ、路線を強化。遅延によるバス離れ（信頼性低下）の回避、乗り継ぎ・サービス向上、案内充実等による利用促進の取り組み。
地域内移動	● 路線バス	民間路線バス	路線バス（各拠点へのアクセス手段） ●各地域の日常生活の移動手段として、将来まで確保・利用促進。 ●新駅開業、都市計画道路開通に伴う新規路線の導入検討。
	● 公共交通不便地域への移動支援（支援事業路線、送迎バスの活用等）	丸山線 八木が谷線 田喜野井線 高齢者移動支援バス	公共交通不便地域への移動支援 ●公共交通不便地域への種々の支援方策について、「実証運行」、市民主体で考える機会を設けながら順次検討。
特定のエリア内の回遊	● 徒歩や自転車及びグリーンズローモビリティなどを含めた新たな回遊手段	—	特定エリアの回遊手段 ●来訪客の状況や、実証運行を踏まえながら、新たな公共交通の導入の可能性を検討。
臨海部工業地へのアクセス	● 企業送迎バス等	—	公共交通不便地域への移動支援（再掲） ●公共交通不便地域への種々の支援方策について、「実証運行」、市民主体で考える機会を設けながら順次検討。

拠点	説明	具体的な拠点	考え方
中心商業地	● 広域的な商業業務機能を高める船橋駅周辺の商業地【公共交通の状況】 東西方向の鉄道、南北方向の鉄道、路線バス（南北中心軸）が接続	船橋駅周辺	● 運行情報、乗り継ぎのわかりやすさ、アクセスの利便性の向上。 ● クルマの集中によるバス遅延の緩和。
地域拠点商業地	● 駅のターミナル機能と一体となった商業業務機能の強化を図る商業地【公共交通の状況】 東西方向の鉄道、南北方向の鉄道、路線バスが接続	西船橋駅、津田沼駅、北習志野駅周辺	
地区拠点商業地	● 駅の性格や地区の特性に応じ、商業機能を中心とした育成を図る商業地【公共交通の状況】 鉄道と路線バス等が接続	高根木戸駅、馬込沢駅、下総中山駅、東船橋駅、南船橋駅、船橋日大前駅、東葉高速鉄道新駅、小室駅、三山	● 運行情報のわかりやすさ、アクセスの利便性の向上。
生活拠点	● 市民の交流や買い物などの日常生活を支える拠点【公共交通の状況】 鉄道と路線バス等が接続	三咲駅、船橋法典駅、原木中山駅	● 運行情報のわかりやすさ、アクセスの利便性の向上。